

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690400070		
法人名	社会福祉法人新川老人福祉会		
事業所名	グループホームちゅうりっぷ		
所在地	富山県魚津市新金屋2-6-2		
自己評価作成日	令和5年7月27日	評価結果市町村受理日	令和5年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://niikawa-hukushi.net/">niikawa-hukushi.net/</a>
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和5年9月13日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の意思を尊重したケアを行ない、少しでも自分らしく過ごすことが出来るように支援していきます。職員は笑顔を忘れず入所者に寄りそいます。部屋から見える立山連峰や、広間の天井がガラス張りになっていることで自然の光が差し込みリラックスした空間が持てます。また、屋上に職員と一緒に上がることもでき市内を一望することが出来ます。全室個室でトイレ洗面台もついているので、排泄時に安心して使用することが出来ます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・介護施設(3階建て)の3階にあったショートステイをグループホームに変更した事業所であるため、個室やリビングスペースも広く開放的である。魚津市内を見渡せるため眺めもよく、ベランダに出て洗濯物を干すなど、外の空気を感じ取ることが出来、利用者も穏やかに過ごしている。
- ・リハビリと娯楽を兼ねて過ごせるホールがあり、ところどころに利用者一人ひとりの個性に沿ったクイズが貼ってあるなど、いろいろな工夫で楽しく過ごせるようにしている。
- ・職員は利用者と深くかかわりを持つことに努め、温かく一人ひとりの生活支援を行っている。
- ・全体としてきれいに片付けられており、衛生面でも気を張って清潔が保たれている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所前に掲示している。カンファレンス実施日には、理念を再認識するためにみんなで読み上げている。	管理者は、現在の理念に対して納得して理解している。カンファレンス時には資料に記載して読み上げることを継続することで、理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外部の人やボランティアの受け入れが出来ていない状況である。運営推進会議では、地域の方との交流をしていきたい旨は話をしている。	コロナ禍により、つながりが薄らいだことも要因ではあるが、地域との交流はほとんど行われていない。	事業所内での検討だけでなく、運営推進会議などを活用して外部の意見を取り入れ、地域とのつきあい方を考えていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ、地域の方に向けた取り組みはできていないが、利用申込者の方から、相談を受けることもあり、わかる範囲でお答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組みが分かりやすいように写真を入れた資料を作成し、説明させて頂いている。また、外部評価や家族へ依頼したアンケート(事業所作成)等にも目を通して頂き報告している。運営推進会議の会議録をご家族にも渡している。	民生委員や家族会会長、市担当課などの参加はあるが、町内会からの参加が得られていない。	管理者の思いを活かすための運営推進会議とするためにも、町内の役員や介護職員の参加などを検討することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市役所の介護保険係の職員に出席していただき、事業所の取り組みを共有して頂いている。	管理者としては、運営推進会議には参加してもらってはいるが日頃の連携は思うようにできていないと感じている。	日頃から市と互いに連携を取り合うために、どのようなことが必要か検討することを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3階に事業所があり、階段やエレベーターは施錠できるシステムになっている事を、ご家族には契約時に説明させて頂いている。また、職員研修として身体拘束等については、カンファレンス実施日に簡単にはあるが、研修として話し合っている。	やむを得ない事情がある際は、しっかりと手続きを踏んだうえで拘束を行う場合もある。新規採用の職員もいるため、拘束をしないケアの実践に向けて、一からの勉強会も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス実施日に、虐待防止研修もを行い、各自の介護の振り返りを行なう機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人が付いている入所者はいないが、必要に応じて学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけわかりやすい言葉を使って説明させてもらっている。また、説明で分からないことはないか確認している。また、いつでも確認したいことや心配なことなどあれば連絡してくださいと話している。連絡時は丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書には苦情など受け付ける連絡先を記載している。また、ご家族からの何か要望があればその都度対応している。入所者からの要望は可能な限り対応している。	職員は、普段から利用者の思いを聞き取るよう努めている。家族が訪れた時もこまめに話を聞き取るようにし、要望や希望、不満などにも丁寧に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃(申し送り時やカンファレンス以外の時でも)から職員の意見は確認し取り入れている。出来るだけ話しやすい雰囲気であるよう心掛けている。	管理者は職員の人事考課を行うだけでなく、日々の業務をスムーズなものにするために丁寧に話を聞き取っている。管理者はその内容を法人本部にうまく伝えられないことに苦慮している。	法人として管理者の意見をくみ取る工夫を行い、延いては利用者の生活改善に繋がるように努めることが望ましい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年2回人事考課で対応している。日頃から、感謝の言葉を伝えることや、意見が出たものに対して取り入れるなどやりがいを持ってもらえるように対応している。 職員不足で労働時間が長い日もあるので、本部事務所には、職員の働く環境が整うようには、その都度伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は希望があれば参加できる体制は取られている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で中々他事業者との交流の機会が設けられなかった。交流の機会があれば参加していきたいと思っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ多くかかわりを持ち、何か困っていることはないかやりたいことはないか、生活歴の中から話題を持ってくるなどして関係作りを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や契約に至る経緯の中で、困っていることや不安に思うことなど傾聴するようにしている。その中で施設では「こんな風に対応して行きたいと思っている」ということをお伝えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームなので本人に必要な生活全般の支援を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事など出来ることを手伝ってもらい、常に労いの言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や面会が思うように自由にできない状況下で近況報告を書面(たより)や電話で行なっている。本人にも電話口に出て話をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で難しい面があった。感染予防に努め、出来る範囲での面会を行ってきた。	社会情勢の変化に伴い、以前に行っていた買い物への同行、散歩の他、ドライブなどのイベントも計画して再開することで、馴染みの人や場との関係継続を支援していく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声を掛け合ったり、一緒に余暇活動を行なうなど孤立しないように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は別の施設へ入所されているが、入所後の様子について確認したケースはある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で何か要望はないかを確認したり、生活歴やご家族と話す機会があるときに好きな事をお聞きし出来ることはないか検討し、対応している。	日常会話の中で本人の思いを聞き出し、家族と話したときに情報を得て、利用者に寄りそえる支援が出来るように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報をご家族や担当ケアマネジャー、また、利用していたサービスの職員等の話を聞きとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者も夜勤に入っているので1日を通した本人の様子を把握することが出来ている。また、申し送りや連絡帳、ケース記録での把握を行ない情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に相談や意見交換を行ない、ケアプラン作成時に反映するようにしている。また、担当職員からも話を聞くようにしている。	職員の申し送り時に利用者に対する気づきの話し合いも行い、その場で情報交換やケース記録に記入しケアプランに反映させている。ケアプランは1年ごとの見直しの時と、利用者に変化があった時に更新している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に本人が話したことや行なったことを記録し、対応や気づきを連絡帳に記載するなど情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	書面やご家族へ情報提供しての受診でも伝わらないことがある場合は、同行し情報提供して		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れはできなかったが、豊かな暮らしになるよう外出行事を計画したり、施設内での行事を行なうなど工夫している。理美容師の方に毎月、訪問して頂き、身なりを整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からかかっている医療機関に継続して受診頂いている。ご家族から往診等の希望がある場合には往診時対応を行なっている。	利用者の多くは、入所前からのかかりつけ医が協力医でもあるため、以前からの体の状態の把握が出来ている。内科以外の受診時は家族に同行してもらい、受診前には施設での様子を担当医に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が在中していないので、受診時や気になったことなどかかりつけ医に連絡が取れるよう相談したり、情報提供として書面をFAXしたり、法人内の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人のADL(日常生活動作)情報や薬剤情報など提供している。入院者の状況を電話で確認したり、許される場合は本人に会いに行くこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から重度化に合わせてどのように対応していくか相談させていただき支援している。また、現在のところ看取りを行っていないので、その旨入所申し込み時から説明させて頂いている。重度化した時の指針を作成した。	看取りは行っていない。家族には、契約時に重度化した時の対応について話をしている。重度化した際には法人全体でバックアップ体制を取り、他の施設への移動を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応をどうするかをカンファレンスで話し合っているが、今のところ実践研修は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を実施しており、その中には地震や水害も考慮した訓練を行なっている。	同一建物にある有料老人ホームと一緒に、建物全体で年2回の火災訓練と水害訓練を行っている。BCPも現在作成中である。水害においては、3階にグループホームがあるため、備蓄品の保管や下の階からの避難訓練を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを心がけている。自分のペースで過ごせるように、個々に意思確認を行ないながら対応している。	声掛けや身体拘束防止の研修をカンファレンスの時に行っている。尊重した話し方も使いながら、親しみを出せるように地域の言葉を使って、コミュニケーションを取りやすいように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を行なうときにも意思確認を行なうように心がけている。また、何か行ないたいことはあるかなど希望を確認している。なければこれはどうかと提案している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候や体調などを考慮しながら希望にそえる時には対応している。意思確認してしたいと思ったことを行なってもらえるような声掛けを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、訪問理美容師さんが施設に来所してくださる。希望で訪問カットを行なえ、自分でどのようにしたいと話してもらい気に入ったようにしてもらっている。洋服もどれがいいか選んでもらうことも行なっている。毎日洋服を変えたい方は自由に交換してもらい、洗濯を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回の特別食を施設で手作りしている。また、手作りおやつの日もあり、一緒に作る楽しさも感じてもらっている。食事に準備や片付けも手伝える部分は行なってもらっている。	特別食では利用者の食べたいものを聞き、それを一緒に買いに行きカップラーメンを食べることもある。日常は米食が多い為、パンとシチューにしたりと利用者と共に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼力の弱い方や飲み込む力が弱い方には、刻み食の提供や薄味食の提供など、ご本人に合った食事形態で提供している。水分を取りたがらない方には、好む飲み物を提供し量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや必要に応じて介助を行ない口腔ケアに努めている。中には訪問歯科を受けている方もおられる。その際は、歯科衛生士の助言等職員で共有に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で交換できるようにトイレ内に排泄用品を設置したり、排泄チェック表にてトイレ誘導の頃合いを確認している。	利用者の居室にあるトイレを各自使用している。生活チェック表で排泄の把握がされ、定時誘導にてパットの大きさが大から小になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩こう会や朝の体操に参加してもらっている。また、朝食時にヤクルトや牛乳の乳製品を取ってもらっている。トイレ時に腹部マッサージや必要に応じて下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤や柚子湯などで入浴時間をリラックスできるようにしている。また、1対1の対応でゆっくり入浴できるように時間を十分にとっている。一応決まった曜日に入浴となっているが、その日の気分や体調によって翌日に入浴することもある。	午後から入浴を行っており、一人週2回は入ることができるよう支援している。現在個浴のみ使用し、心地よい入浴時間となるよう個別に対応している。シャワー浴の場合は足湯も併用し、リラックス出来るよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家から持ち込んでいただいた寝具を使用し、パジャマに着替えて就寝してもらっている。室温や明かりにも気を付けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更したときにも効能等確認し情報共有している。また、本人の様子・状態をご家族や主治医に情報提供し診療に役立ててもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭での過ごし方をご家族に伺い、家で行っていた役割が施設でもできる事であれば行ってもらったり、好きな事(趣味)に取り組んでもらうなど個別に対応している。また、嗜好品を持参してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴やベランダや屋上に出て景色を眺めたりちょっとした気分転換を行なっている。	人混みにはまだ行けないが、徐々に外に出るようにしている。1階の外まで職員と一緒にゴミを捨てに行ったり、ベランダで洗濯物を干しながら日光浴や景色を眺めたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいない。施設の方に移動販売してくれる業者さんがおられ、希望があれば、本人持ちのお小遣いから支払いをし、利用させてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話があった時に電話口に出してもらったり、かけてほしいと言われた時には時間を考慮し支援している。今年も年賀状を出す予定にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広間にはソファや椅子が沢山あり、好きなところで寛ぐことが出来ている。天井がガラス張りになっており自然の光も入り気持ちがいい。壁には季節を感じられる作品が飾られている。また、好きな歌謡曲やクラシックをかけることもあり、リラックスできるように心がけている。	ソファが多くあり、どこでも寛げるようになっている。生活空間の他に隣の空きユニットを活用し、壁一面に利用者の手作り作品を飾ったり、軽運動やレクリエーション、施設独自のクイズを行ったりして楽しんでいる。温度管理にも気をつけ、エアコンの風が直接当たらないようにしたり、吹き抜けで寒い時は覆いをしたりして、利用者に優しい対応を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな方と話が出来るよう、椅子が沢山置いてある。また、可動できるテーブルもあり、必要に応じて使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご本人が安心できるようなものを持ち込んでくださいと話をしている。安全に移動できるように配置を工夫したり、部屋の壁に作品を飾るなど居心地が良くなる工夫をしている。	部屋の前には利用者の名前が大きく掲示され、個々に特徴ある飾りがしてあり、他の部屋との区別が出来るようになっている。障子戸があり整理整頓され落ち着いた雰囲気になっている。部屋の中にトイレもあり、ベッドからトイレの動線上に家具を置き転倒予防の配慮をしてある居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りがあったり、標示をすることで分かりやすくし、自分で出来ることが減らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

## 目標達成計画

作成日: 令和 5年 10月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2・4	コロナもあり、外部との関わりやボランティアの受け入れが出来てない状態である。場所的なものから現在は地域との交流がほとんど行われていない。	運営推進委員会を通して、外部の情報や意見を取り入れて地域との交流の機会を増やしていく。	・町内会からの参加という意味で、町内会長さん等を運営推進委員になって頂けるようお願いしてみる。 ・外部の意見を取り入れながら、地域との付き合い方を考えていく。 ・グループホームちゅうりっぷの事を理解する為にも、法人本部職員や介護職員も運営推進会議に参加しサービス向上に努める。	6ヶ月
2	5	運営推進会議には市役所から参加してもらっているが、日頃の連携は思うように出来ていない。	日頃から市と互いに連携を取り合うようにする。	・包括支援センターからも運営推進会議に参加して頂けるか？声掛けをしてみる。	2ヶ月
3	11	法人本部に状況報告を行っているが改善に時間を要している。	入居者の生活改善に繋がるよう努力する。	・2か月に1度行っている、グループホーム(3箇所)の合同会議に法人本部からも参加して頂き、会議での提案や意見を汲み取って頂く。 ・2か月に1度の運営推進会議に法人本部からも参加して頂き、会議での提案や意見を汲み取って頂く。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="checkbox"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="checkbox"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( ご家族に調査結果を配布した。 )
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="checkbox"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )